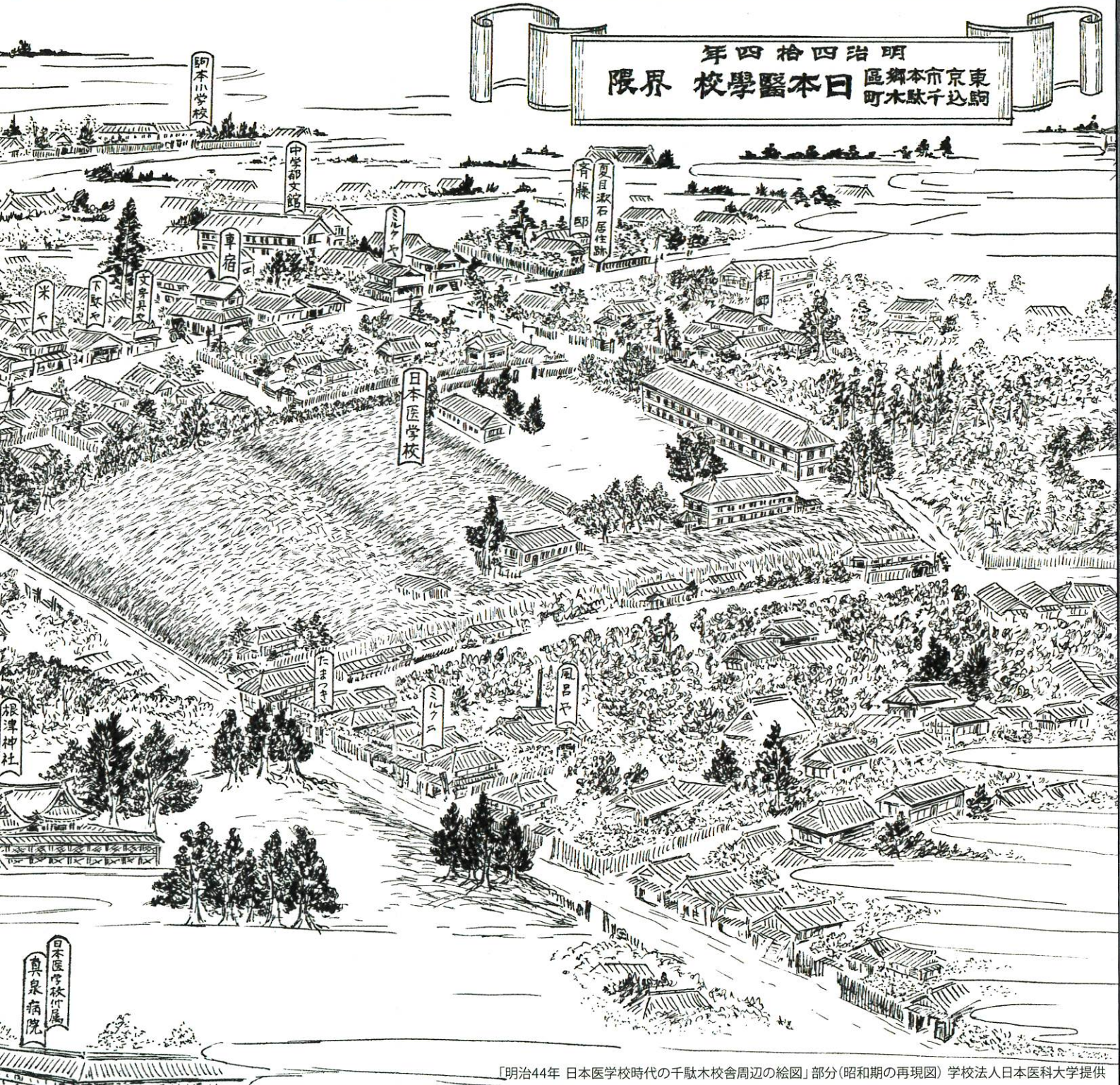


文京区立 森鷗外記念館NEWS

No.44



「明治44年 日本医学校時代の千駄木校舎周辺の絵図」部分(昭和期の再現図) 学校法人日本医科大学提供

目次

巻頭コラム「鷗外作品、志げ作品に見る茉莉」藤木直実(日本女子大学ほか非常勤講師) / 展示報告 / ショップ便利 / カフェ便利 / 展示のお知らせ 特別展「千駄木の鷗外と漱石～二人の交流と作品を歩く」 / 特集「鷗外旧蔵の料理本からレシピを再現」 / 活動報告 / 地域情報 / これからの催しもの / 2023年度後期開館カレンダー / 編集後記

鷗外作品、志げ作品に見る茉莉

藤木直実 (日本女子大学ほか非常勤講師)

鷗外の文壇復帰作『平日』は、鷗外唯一の私小説とも言われる。作中に描かれた「高山博士」の家庭の嫁姑争いは森家の内実として受けとめられ、怪物じみた「奥さん」の造型によって、鷗外の妻志げは、その没後に至っても悪妻の見本であるかのように語られた。

他方で、茉莉をモデルとする「玉ちゃん」は、赤く丸く太った顔をした愛らしい童女として登場する。寝言で唱歌を歌い、目覚めればむくむくとした手を伸ばし、Papaに抱かれるのを待つ。抱かれていたときの仕草や、折々にPapaの元に駆け寄ってくる様子など、父親を慕う姿が活写される。

それに応えるかのように、高山博士は日頃から玉ちゃんと一緒に朝の洗面をし、朝食を共にし、さらに玉ちゃんの食事について女中に細かな指示を出している。明治の家長としては稀な「イクメン」ぶりだと言えらるだろう。

前述のとおり『平日』には恒常的な家庭内不和が描かれる。こうした環境に子どもを置くことは、現代の観点からすれば子どもへの虐待に相当しよう。同様に、「玉ちゃん」を連れて家出するという妻の口癖は、子どもを利用した夫へのDVに他ならない。

玉ちゃんは、祖母と母との不仲、父を責め立てる母の姿に常に接しており、三者を取り持つべく気を遣っている。そのことをよく分かっているがゆえに、博士は「玉なんぞは親の笑ふ声を知らないのだ」と娘を強く抱きしめるのである。

後年、茉莉は『平日』と題した随筆を発表

し、鷗外『平日』によって「狂人染みた女から生れた系属」といふ感じを受け、永遠にそれに縛られて生きて行かなくてはならない「ことの悲しみを述べた。鷗外『平日』が、志げの名誉のみならず茉莉の心にも深い傷を残したことが伺えよう。

さらに茉莉の『平日』では、鷗外『平日』に描かれた時期から数年後の自身が見た家庭の様子が綴られる。それによれば、この間に生じた「事件」が、父と母と祖母の関係を変えたのだという。明治四一(一九〇八年)一月、当時満五歳の茉莉と、生後五ヶ月の弟の不律は百日咳を発症する。不律は二月五日に亡くなり、茉莉は危篤に陥るも奇跡的に回復した。鷗外の小説『金毘羅』は、その過程を詳細に記述するものである。

『金毘羅』には、茉莉と不律に相当する二児が「百合さん」と「半子」として登場する。それぞれの病状の推移や、看護と治療の様子が、具体的な薬剤名も含めて克明に描かれる。特効薬がないため自然治癒を待つしかなく、咳や高熱や肺炎に苦しむ病児を前にして対症療法のほかには為す術もない両親の姿は、コロナ禍下の現在に通じよう。

半子から十日余り遅れて一月二十日に発症した百合さんは、病勢が募るにつれて目が血走り、顔貌が変わり、毛をむしった鶏のように瘦せた。ついに三月八日には、あど二日か三日の命と宣告される。ここに至って百合さんは「にゆうとねい」すなわち牛肉と葱とを所望し、医学的な常識に反して父親がこれを与えたのを契機に彼女が劇的に回復したことは、よく知られた話題である

回復したことは、よく知られた話題である

茉莉の随筆「二人の天使」にはこの「牛と葱」をめぐる記述が見られ、『蜘蛛』には高熱の際の幻視が、『普列』には弟の思い出が描かれる。いずれも『金毘羅』と共通する内容である。他方で、随筆『平日』と『注射』には、『金毘羅』には書かれることなかった「事件」が披露された。医師と両親は危篤状態の茉莉を安楽死させようとし、実行直前に来訪した志げの父親によってこれが阻止されたのだという。茉莉『平日』は、安楽死の提案が祖母の峰によるものであり、そのことが鷗外と峰との関係にしこりを残したとする。

鷗外作品において茉莉をモデルとする童女が描かれるのは『平日』と『金毘羅』の二作品のみだが、志げは自身の最初の子どものに寄せる思いを『猩紅熱』『旅婦』『友達の結婚パツクの大臣、流産』『産』『内証事』『ぼつちちゃん』の六作品に残した。

なかでも『猩紅熱』は、ヒロイン「波子」が生後半年の息子を亡くした日からちょうど一年後の「二月五日」を描いた作品である。娘の「丸さん」が高熱を出し、波子も夫も猩紅熱を疑って非常に心配するが、翌日には熱が下がったので、思い過ごしをしたことを馬鹿馬鹿しくも嬉しくも思う。当時の猩紅熱は法定伝染病であり、本作が発表された明治四三(一九一〇)年には、山の手を中心に東京で猩紅熱が大流行していた。

さらにこの年の二月には、まず茉莉が、続いて香奴が、流行性感冒を発症したことが鷗外日記から確認できる。五日の記事には「短詩会を開きながら、余は茉莉の病床にありて其席に列すること能はざりき」とあり、定例の観潮楼歌会を看病のために欠席したことが知れる。娘の発熱を知った「猩紅



平福百穂『観潮楼歌会』
左から、伊藤左千夫、与謝野寛、佐佐木信綱、茉莉、鷗外、平野万里(スバル)1年3号、明治42年3月

熱」の夫が、「これでは歌が詠めさうにない」と自邸での歌会を退席するくだりは、この事実に基づいている。

『猩紅熱』には、丸さんが歌の会を楽しみしていること、客人たちの傍らで自分は絵を描き、いっしょに食事をするを嬉しく思っていることが書き込まれてもいる。平福百穂による観潮楼歌会の光景を彷彿とさせる挿話であると言えよう。

藤木直実

ふじき・なおみ

1968年東京生まれ。専門分野は日本近現代文学・ジェンダー研究。著書に『妊婦』アート論——孕む身体を奪取する(共編著、青弓社)、『東アジアの都市とジェンダー——過去から問いなおす(共著、文学通信)、『パンドミック』とフェミニズム(共著、翰林書房)などがある。森鷗外記念会評議員。

展示報告

コレクシオン展

「生誕120年 森茉莉〜幸福な日々、書くという幸福〜」

2023年7月14日(金)〜10月1日(日)

2023年、生誕120年をむかえた鷗外の長女・森茉莉について、観潮楼で生まれ育った時代、作家として活動するようになった時代の2部構成で紹介しました。1章「観潮楼の茉莉〜幸福な日々〜」では、書簡、茉莉9歳の書き込みがある雑誌、写真等の資料19点を通して等身大の茉莉の姿を表しました。鷗外筆書簡からは父・鷗外が茉莉に注いだ愛情の一端を、石川啄木筆書簡の図版(函館市図書館啄木文庫蔵)や当時の新聞記事などからは、周囲から見た茉莉の印象を見ていただけたと思います。

2章「作家・森茉莉〜書くという幸福〜」では、茉莉の著作の中から主要作品として「父の帽子」「賢沢貧乏」「恋人たちの森」「甘い蜜の部屋」「ドッキリチャンネル」の5作を選び、自筆原稿、新取蔵・当館初公開の葉書3通、書簡2通(いずれも部分展示)を交えた資料28点を通してご覧いただきました。書簡には執筆の苦心やこだわりなど、私信ならではの率直な思いを読むことが出来ます。また、初期の『平日』原稿と晩年の『ドッキリチャンネル』原稿からは、筆記具の変化のみならず、模索しながら書いていた時代から迷いなく自らの思いを表わすようになった歳の積み重ねが見て取れます。

鷗外の「お茉莉は上等」の言葉に支えられたとはいえ、長く芽が出ない時代も執筆を続け、常に良い作品を書くこととする茉莉の不断の努力があったからこそ、自分の好いと思う世界や気持ちを実直に表現した、前向きな作品が書かれたのだと感じました。茉莉の幸福が詰まった作品であるからこそ、その作品は現在も私たちを魅了し、時に元気づけているでしょう。展覧会開催に際し、多くの方のご協力を得ました。この場を借りて御礼申し上げます。

会期中に左記のイベントを開催しました。

○関連講演会「千年に一度の人・森茉莉」

講師・島内裕子氏(放送大学教養学部教授)

日時・8月26日(土) 14時〜15時30分

会場・文京区立森鷗外記念館2階講座室

○朗読会「生誕120年・森茉莉の世界」

朗読・渡邊あゆみ氏

(NHKエッセイティブ・アナウンサー)

日時・9月2日(土) 18時30分〜19時45分

会場・文京区立森鷗外記念館エントランス

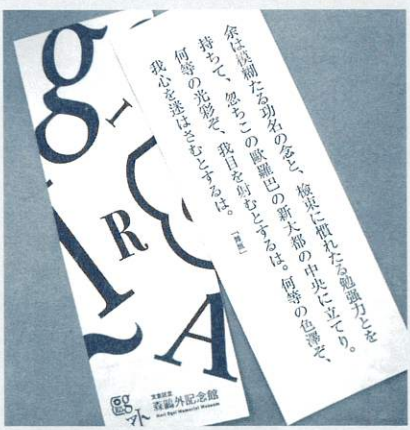


ショップ便り

当館では、毎年7月9日の鷗外忌に展覧会を観覧された方に、オリジナルしおりをプレゼントしています。今年はしおりのデザインをリニューアルし、新たに販売用のしおりを制作しました。当館展示室の常設コーナーには、鷗外の生涯を解説した計11枚のパナーが掛かっており、作品や日記から厳選された各時代を象徴する鷗外の言葉が書かれています。この11枚のパナーに書かれた言葉を、11枚のしおりにしました。遺言の一節が書かれたプレゼント用のしおりは、11枚のパナーにあたります。

しおり表面には鷗外の言葉、裏面には当館のロゴをちりばめました。しおりは活版印刷とバーコ印刷(浮き出し加工)を使用し、どのしおりも必ず両方の印刷技法が用いられています。紙の特性によりそれぞれ表情が違うため、一枚一枚違った味わいが楽しめます。

ショップでは11種類のうち10種類を販売しています。11種類コンプリートを目指す方は、鷗外忌にぜひ当館に足をお運びください。



1枚 税込120円
5枚セット(2種) 税込550円

カフェ便り



ドリンク付 税込1,000円

コレクシオン展「生誕120年 森茉莉〜幸福な日々、書くという幸福〜」開催にあわせて、モリネカフェでは茉莉をイメージした期間限定メニュー「マドモワゼルセツト」を販売しました。クリームブリュレにチョコプレート、さらに飾りつけた欲張りなセットです。飾り、茉莉の想い出のお菓子、

「有平糖の花菓子」をイメージしました。茉莉は貧乏サヴァランで、「それらの花束は細く長い、青白い母の掌の上に、半紙にのせられて咲き香っていた。一回分のおやつとして母はその中の桜の二三輪とか、牡丹の花片の幾つか、というように折って私に、与えた」と想い出に触れています。

クリームブリュレ、チョコプレートは千駄木にある「タバーン」、飾りは根津にある「根津金太郎」にお願いました。どちらも区内にある老舗の菓子店です。商品はどちらも各店頭で販売しています。ぜひ、お店にも立ち寄ってみてください。

展示のお知らせ

特別展

「千駄木の鷗外と漱石」

「二人の交流と作品を歩く」

森鷗外(1862-1922)と夏目漱石(1867-1916)は、明治を代表する文豪です。同時代を生きた二人は、近代日本文学の双壁としてよく比較されてきました。例えば、鷗外は島根県津和野町出身で明治維新後に東京に上京しましたが、漱石は生まれも育ちも東京で生粋の江戸っ子です。また鷗外は22歳でドイツへ、漱石は33歳でイギリスに留学しました。さらには鷗外が陸軍軍医として「官」に生きたのに対し、漱石は「民」の立場に在ったなど、比べれば限りがありますが、しかし、「千駄木」という場所を通してみると、二人の足跡の交わりが見えてきます。

鷗外と漱石が顔を合わせたのは数回ですが、本展では二人の接点を振り返り、千駄木をキーワードにその交流と作品を紹介します。自著を贈るやり取り、そして時期を異にして二人が住んだ「駒込千駄木町五十七番地の家」の歴史、次いで鷗外「青年」、漱石「吾輩は猫である」「三四郎」に代表される千駄木を舞台にした作品の登場人物たちの交錯を、書簡や原稿、献呈本などとあわせて展覧します。

展覧会を見終えて記念館を出た後、千駄木の街が来た時と少し違って見えるかもしれません。千駄木に刻まれた鷗外と漱石の記憶をぜひご覧ください。

関連事業のお知らせ

展覧会期間中に関連事業を予定しております。いずれも、会場は2階講座室、定員50名です。申込方法は7頁をご覧ください。

朗読会「夏目漱石『吾輩は猫である』を読む」

朗読 采澤靖起氏(文学座)
日時 11月5日(日) 14時~15時30分
参加費 1200円
申込締切 10月23日(月) 必着

講演会「千駄木の豊島与志雄」

講師 藤井淑禎氏(立教大学名誉教授)
日時 11月25日(土) 14時~15時30分
参加費 無料(参加票と本展の観覧券(半券可)が必要)
申込締切 11月10日(金) 必着

講演会「漱石とモダニズム」

講師 奥泉光氏(作家、近畿大学教授)
日時 12月16日(土) 14時~15時30分
参加費 無料(参加票と本展の観覧券(半券可)が必要)
申込締切 11月24日(金) 必着

ギャラリートーク

展示室にて当館学芸員が展示解説を行います。申込不要、当日の展示観覧券が必要です。

10月18日、11月1日、1月10日 いずれも水曜日14時~(30分程度)
※右記に加え、会期中展示解説をYouTubeチャンネルにて配信予定。

同時開催

○「新宿×文京 漱石&鷗外スタンプリアリ」

実施期間 10月7日(土)~1月14日(日)
期間中、新宿区立漱石山房記念館で開催中の展覧会と本展をご観覧の方に、もれなく缶バッジをさしあげます。



○「鷗外&漱石ブックフェア」

詳細は展覧会開催期間に記念館HPでご確認ください。

記念日イベント

開館日を記念して、11月1日(水)に展覧会を観覧された方に、オリジナルポストカードをプレゼントします。

村上祐紀「拓殖大学教授」

今回、「レクラム料理」のレシピの翻訳を担当いたしました。家族や友人の「レクラム料理」に関する証言は残っているものの、細かい情報がない状態だったため、キャベツの肉詰め肉詰めの作り方など、イメージと異なるものも多くありました。翻訳に関しては、レシピ特有の用語や材料の特定に苦労をしました。私達の感覚では、一見合わないのではないかと感じるような材料の組み合わせもありました。料理初心者向け「最新で最善の料理本を謳った本書が、ドイツの料理本史の中で、どのような位置づけを持つのか、興味深く感じました。

三宅紀子「東京家政学院大学教授」

ドイツの料理本と聞いて、原著でも読んでみたいと思いましたが、少し覚えている食品名などもあるものの、フラクトゥール(旧書体)にあっさり諦めました。「キャベツの肉詰め」を自宅で試作してみたところ、初めに想像していたよりも小さい、直径約15cmの球状の出来上がりでもかなりたくさんひき肉が必要で、ボリュームたっぷりな料理で驚きました。現代の料理とは少し異なる材料や作り方でしたが、「ロシア風サラダ」「じゃがいもコロッケ」もシンプルだけれど、やさしい味でおいしかったです。

伊藤有紀「東京家政学院大学助教」

現在のレシピにヒントを求めするため、料理が大好きというドイツ食料店の店主に伺ったところ、「ロシア風サラダ」について、現在のドイツでも親しまれており、特別感のあるサラダのイメージとのことでした。また、ドイツのレシピサイトなども参照する中で、野菜を角切りにする点は「ロシア風サラダ」の特徴のようでした。じゃがいもをつぶすのではなく、さいの目切りにしたり、副材料を様々な工夫することで、当時の人も日常的な食材をご馳走風に仕立てて楽しんだのでは、と想像しながら調理をいたしました。

江原絢子「東京家政学院大学名誉教授」

私は江戸時代や近代の料理を再現し標本を作成した経験から、今回まず気になったのは料理を盛る器です。時代にマッチしない器は、料理をうまく再現できても雰囲気違ってしまふからです。明治の資料から西洋料理の家庭用の器を調査し、大学の器が使えそうだと思えたのは幸いでした。ロシア風サラダの食材名からは生かどうかはつきりませんが、他の資料から加熱するか、酢漬けなどの加工が多いとわかり、きゅうりもピクルスを使用していました。再現には地域、時代の食文化の把握が大切なことを改めて感じています。

〈特集〉

鷗外旧蔵の料理本から

レシピを再現

春の特別展「鷗外の食」(4月8日~7月9日)では、森家のおもてなし料理「レクラム料理」を取りあげました。鷗外旧蔵のドイツの料理本(Bernhard Jolai "Neuestes und bestes Kochbuch für Jede Haushaltung," 東京大学総合図書館蔵)から、「レクラム料理」の元になったと思われる料理を選び、拓殖大学・村上祐紀教授の翻訳でレシピを紹介しました。

このレシピに多くの関心が集まったことから、会期半ばに東京家政学院大学の三宅紀子教授、伊藤有紀助教、江原絢子名誉教授(本展食文化監修)のご協力で、「キャベツの肉詰め」「ロシア風サラダ」「じゃがいもコロッケ」の再現を試みました。100年以上前のドイツの料理本は材料、分量、時間などの記載が曖昧です。レシピを丁寧に見直し、必要な材料と手順を検討しながら調理をしていただきました。こまめに味見や相談をして材料を調整いただいたことで、とても美味しく、滋味深い三品が完成しました。レシピの翻訳と再現に協力いただいた先生方のコメントをご紹介します。



再現に協力いただいた東京家政学院大学の先生方(右から伊藤助教、江原名誉教授、三宅教授、里村補助員)



完成した料理の写真をパネルにして展覧会場に掲示(5月28日から展覧会終了まで)

鷗外旧蔵のドイツのレシピ本の中から、森家で使われていた「レクラム料理」の元になったと推定されるロシア風サラダ、キャベツの肉詰め、じゃがいもコロッケを再現しました。

会期 ● 2023年10月7日(土)~2024年1月14日(日)
〔会期中の休館日〕10月24日(火)、11月28日(火)、12月26日(火)~1月3日(水)
会場 ● 文京区立森鷗外記念館 展示室1、2
開館時間 ● 10時~18時(最終入館は17時30分)
観覧料 ● 一般600円(20名以上の団体・480円)

※中学生以下無料、障害者手帳ご提示の方と介護者1名まで無料
※文京ふるさと歴史館入館券、パンフレット(印刷)、友の会会員証ご提示で2割引き
※その他各種割引がございます。詳細は記念館HPをご覧ください。
○本展覧会の最新情報は記念館HP等でご確認ください。
監修 ● 山崎一類氏(跡見学園女子大学名誉教授、森鷗外記念館館長兼野郎館長、森鷗外記念館顧問)
中島国彦氏(京福田大名誉教授、日本近代文学館館長、全国学館協議会会長)
協力 ● 株式会社岩波書店、川島幸希、公益財団法人虚子記念文学館、公益財団法人日本近代文学館、県立神奈川近代文学館、東京大学総合図書館、文京ふるさと歴史館



キャベツと挽肉を重ねていく「キャベツの肉詰め」はボリューム満点



手元にレシピを置き、こまめに確認と相談をしながら必要に応じてアレンジを加えて調理



奥から「キャベツの肉詰め」「ロシア風サラダ」「じゃがいもコロッケ」。コロッケはレシピに従い洋梨の形に成形

活動報告

鷗外忌記念講演会を開催しました

毎年恒例の鷗外忌記念講演会。今年は7月8日に『鷗外青春診療録控 千住に吹く風』の著者である山崎光夫氏をお迎えし「千住時代の森林太郎(鷗外)——町医者として過ごした煩悶の日々」というテーマで開催いたしました。父の診療所「橋井堂医院」を手伝い、町医者として実際に診療に携わっていた若き林太郎の経験は、後の作品だけでなく鷗外の生き方そのものに大きく影響を与えたというお話や、鷗外忌にちなみ、彫刻家の新海竹太郎をテーマとしたご自身の著作『漱鷗のデスマスク』の話題、毎年7月に当館で展示される鷗外「遺言書」オリジナル資料の迫力についてなど、それぞれ具体的なエピソードを交えた講演に、参加者は傾きながら改めて鷗外という人物の生涯に思いを馳せる時間となりました。



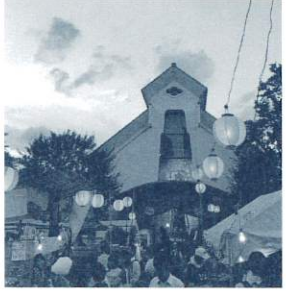
7月9日、10日、「四万六千日 ほかすき千成り市」が、千駄木の光源寺で開催されました。このお祭りは、地域の方が手が

地域連携イベント

駒込大観音 ほかすき千成り市に参加しました!

7月9日、10日、「四万六千日 ほかすき千成り市」が、千駄木の光源寺で開催されました。このお祭りは、地域の方が手が

作りで行う緑日、小さなお子様からお年寄りまで大変多くの方で賑わいます。20年以來、ひさしぶりに開催されることになり、当館はモリキネカフェで提供しているドイツワインを販売しました。鷗外忌でもある9日には、コレクション展チラシも配布し、38度を超える猛暑の中、冷たいドイツワインをお楽しみいただきました。会場では、ジャズコンサート、駒込高校の大太鼓なども披露され、マスクをはずし、ワインのほか、かき氷、焼きそばなどを楽しむ地域の皆さんと、交流することができました。



夏のジュニア講座を開催しました

8月5日、出口智之氏(東京大学准教授)による中学生を対象とした、ジュニア講座「文豪だつて、不安だつた!鷗外と考える、先の見えない時代の歩きかた」を開催しました。当日は、中学生だけでなく、保護者、教員などのご参加もあり、バラエティに富んだ参加者層となりました。生徒向けに「鷗外の職業選択」「鷗外の恋愛」にスポットをあて、学業や恋愛では鷗外も数々の挫折があつ



8月最後の日曜日、当館を会場に上千駄木町会主催「森鷗外記念館であそぼう!子どもフェスタ」が開催され、親子連れで賑わいました。綿菓子やかき氷の振る舞い、ヨーヨー釣りなどに加え、子どもたちに鷗外について学び(はかせ)になつてもらおうという企画「はかせツアー」を実施しました。鷗外に扮した職員が皆さんを観覧楼に招待したという設定で、家の間取りや庭を案内し、展示室で家族写真や模型などを観賞しました。様々な感想や質問が飛び交い、ツアーが終わる頃には沢山の「鷗外はかせ」が誕生しました。地域児童やバギー親子向けの企画は初めてでしたが、子育て世代が楽しむ参加しやすいイベントの必要性を感じた貴重な機会となりました。子ども向けイベントについて企画を練つてくださった町会の皆様、協力いただきました方々に改めて御礼申し上げます。

たというエピソードが披露され、鷗外の「青春の光と影」を知ることができました。出口氏の解説は親しみやすく、楽しみながら学ぶことのできる夏休みのひとときとなりました。またの開催を求める声も多く、今後ともジュニア対象の講座を企画していきたいと思ひます。

子どもフェスタ開催!

8月最後の日曜日、当館を会場に上千駄木町会主催「森鷗外記念館であそぼう!子どもフェスタ」が開催され、親子連れで賑わいました。綿菓子やかき氷の振る舞い、ヨーヨー釣りなどに加え、子どもたちに鷗外について学び(はかせ)になつてもらおうという企画「はかせツアー」を実施しました。鷗外に扮した職員が皆さんを観覧楼に招待したという設定で、家の間取りや庭を案内し、展示室で家族写真や模型などを観賞しました。様々な感想や質問が飛び交い、ツアーが終わる頃には沢山の「鷗外はかせ」が誕生しました。地域児童やバギー親子向けの企画は初めてでしたが、子育て世代が楽しむ参加しやすいイベントの必要性を感じた貴重な機会となりました。子ども向けイベントについて企画を練つてくださった町会の皆様、協力いただきました方々に改めて御礼申し上げます。



これからの催しもの

催しは○以外は全て事前申込制です。各申込締切日必着でお申込みください。詳細は、チラシやHPをご覧ください。当館までお問い合わせください。★応募多数の場合抽選とさせていただきます。★悪天候等やむを得ない事情により、日程・講師・内容を変更する場合があります。

11月1日(水) 10:00 ~ 17:30(最終入館)	開館記念日行事 ○
展示会を観覧された方に、オリジナルポストカードをプレゼントします。	
11月3日(金・祝) 14:00 ~ 15:30	開館記念講演会「森鷗外の歴史地図」
講師: 村上祐紀氏(拓殖大学教授) 会場: 講座室 定員: 45名 料金: 1000円 申込締切: 10月20日(金)必着	
鷗外はなぜ晩年に歴史小説を書き続けたのか、歴史をどのように捉えていたのか。「森鷗外の歴史地図」を探索します。	
11月30日(木) 10:30 ~ 12:00	文学散歩「銀杏の木の下——雑司ヶ谷から漱石山房へ」
講師: 倉本幸弘氏(森鷗外記念会常任理事) 会場: 新宿区を中心に 定員: 15名 料金: 1500円 申込締切: 11月17日(金)必着	
漱石と鷗外のゆかりを訪ねて雑司ヶ谷を出発し、都電に乗って漱石山房記念館を目指します。※都電運賃は各自でお支払いください。	
11月25日(土) 14:00 ~ 15:30	展示関連講演会 「千駄木の豊島与志雄——野田宇太郎と鷗外漱石を〈引き合わせ〉た男」
講師: 藤井淑禎氏(立教大学名誉教授) 会場: 講座室 定員: 50名 料金: 無料※要本展観覧券(半券可) 申込締切: 11月10日(金)必着	
12月16日(土) 14:00 ~ 15:30	展示関連講演会「漱石とモダニズム」
講師: 奥泉光氏(作家、近畿大学教授) 会場: 講座室 定員: 50名 料金: 無料※要本展観覧券(半券可) 申込締切: 11月24日(金)必着	
12月23日(土) 11:00 ~ 17:00	文の京ワークショップ/ふみの日イベント 「なつかしの年賀状をつくろう」○
会場: エントランス 料金: 無料 なつかしい「芋版」で年賀状をつくります!ご家族やお友達と一緒にご参加ください。年賀状、はがきはご持参ください。	

10月7日(土) ~ 2024年1月14日(日)	新宿×文京 漱石&鷗外スタンプラリー ○
期間中、特別展「千駄木の鷗外と漱石」および新宿区立漱石山房記念館の展示会を観覧された方に、オリジナル缶バッジをプレゼントします。	
11月3日(金・祝)、4日(土) 10:30 ~ 15:00	落校マルクト in 鷗外記念館 ○
会場: 当館前 文京区とゆかりのある、福岡県北九州市、島根県津和野町、新潟県魚沼市、石川県金沢市の名産品マーケットです。	
11月5日(日) 14:00 ~ 15:30	朗読会「夏目漱石『吾輩は猫である』を読む」
朗読: 采澤靖起氏(文学座) 会場: 講座室 定員: 50名 料金: 1200円 申込締切: 10月23日(月)必着	
11月23日(木・祝) 14:00 ~ 15:30	文の京ワークショップ/ふみの日イベント 「パペットを作ってみよう」
講師: 人形劇団ブーク 会場: 講座室 定員: 20名 料金: 2200円(材料費) 申込締切: 11月10日(金)必着	
カラフルなフェルトを自由に選んで、かわいい犬や猫のパペットを作ってみよう!※対象年齢4~12歳	
12月9日(土)、10日(日) 10:30 ~ 15:00	鷗外マルクト「ドイツクリスマスマーケット&津和野マルシェ」○
会場: 当館前、エントランス 鷗外ゆかりの地である、ドイツと津和野の名産品を集めたマーケットを開催します。	
12月10日(日) 11:00 / 13:30 (各回30分程度)	クリスマスコンサート ○
演奏: MOG室内合奏団 会場: エントランス 料金: 無料 クリスマス曲や鷗外が留学したドイツにゆかりのあるクラシック音楽を、弦楽四重奏でお楽しみください。	

◆◆上記イベントの申込方法◆◆

事前申込制のイベントは、各申込締切日までに下記のいずれかの方法でお申込みください。申込みは、1通につき1名様(はがき・Eメールどちらかお一人様1通まで)、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。申込締切後1週間以内に抽選結果をお知らせします。

①往復はがき 往信に参加希望プログラム名・日程・氏名(ふりがな)・住所・電話番号、返信用には、住所・氏名を明記の上、〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館イベント係までご応募ください。 ※日中に連絡が取れる電話番号をご記入ください。

②Eメール 件名に参加希望プログラム名・日程・本文に氏名(ふりがな)・Eメールアドレス・電話番号を明記の上、bmk-event@morigai-kinenkan.jp までご応募ください。 ※参加可否のご連絡をEメールでいたします。当館からのEメールが受信可能なEメールアドレスをご記入ください。受信制限が設定されている場合、当館からのEメールを受け取れないことがありますので、あらかじめご確認のうえ送信ください。 ※日中に連絡が取れる電話番号もしくはEメールアドレスをご記入ください。

[ご提供いただきました個人情報は、個人情報保護法に基づき適切に管理し、当該プログラム以外の使用はいたしません。]

地域情報

●新宿区立漱石山房記念館

文京区ゆかりの文学者でもある夏目漱石が、最も長く住んだ地域が新宿区です。漱石は、慶応3年に江戸牛込馬場下横町(現・新宿区喜久井町)に生まれました。愛媛や熊本への赴任、イギリス留学を経て、かつて鷗外が暮らした駒込千駄木町57番地の家などに住み、明治40年に早稲田南町に移りました。漱石は通称「漱石山房」と呼ばれたこの家で、『三四郎』『こゝろ』『道草』など多くの作品を執筆し、大正5年に49歳で死去しました。漱石山房は漱石没後、昭和20年5月に戦災で焼失し現存していません。

漱石生誕150年目にあたる平成29年、漱石山房跡地に開館したのが新宿区立漱石山房記念館です。漱石山房の書斎、客間、ベランダ式回廊の再現展示や、企画にあわせた資料展示を観覧することができます。

当館特別展「千駄木の鷗外と漱石」期間中、両館の展示会を観覧頂き、スタンプを集めた方にはもちろんオリジナル缶バッジをプレゼントしますので、この機会にぜひ足をお運びください。



新宿区立漱石山房記念館
東京都新宿区早稲田南町7
開館時間: 10時~18時
休館日: 毎週月曜日(休日の場合は開館し翌日休館)、年末年始ほか
観覧料: 令和5年度特別展(10/21~12/17) 一般500円/通常展 一般300円/小・中学生 100円

●第20回全国藩校サミット文京大会

藩校とは、江戸時代に各地の藩がその藩の子弟を教育するために設けた教育機関です。かつては250を上回る数の藩校が全国にありました。鷗外もまた、出身地・島根県津和野町の藩校・養老館に7歳から9歳まで通い、漢籍の基礎を学びました。「全国藩校サミット」は、各地域に息づく藩校教育の伝統や精神を、現代の視点で見直し活用することを主旨とした催しです。平成14年から各藩校の所在地で毎年開催されています。第1回目の平成14年、そして第20回目の今年も文京区が会場となっています。

文京区には、江戸時代に幕府の官立学校であった昌平坂学問所(現・湯島聖堂)があり、他にも徳川家ゆかりの神社仏閣や武家屋敷などがあります。当館では、文京区主催の「文京ミューズネット周遊デジタルカードラリー」に参加のほか、関連企画として9月に安岡定子氏による「森鷗外記念館で論語塾」、11月には文京区とゆかりのある地域の名産品マーケットを開催予定です。



都立工芸高校生徒のデザインによるロゴマーク(右)とマスコットキャラクターゆしまる(左)

2023年度後期 文京区立森鷗外記念館 開館カレンダー

10月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

3月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

コレクション展「生誕120年 森茉莉 ～幸福な日々、書くという幸福～」
7月14日(金)～10月1日(日)

特別展「千駄木の鷗外と漱石 ～二人の交流と作品を歩く」
10月7日(土)～2024年1月14日(日)

コレクション展「長原孝太郎生誕160年・近所のアトリエ(仮称)」
1月19日(金)～3月31日(日)予定

● 休館日

開館情報は予告なく変更になる場合があります。
詳しくは当館までお問い合わせください。

編集後記

7月25日から28日まで、国立科学博物館主催の「教員のための博物館の日」に初めて参加しました。この催しは、子どもたちに博物館を楽しんでもらうために、まずは教育を担う学校の先生方に博物館の魅力を知っていただくというものです。上野公園内を中心に、台東区や文京区の施設が参加し、それぞれの学校向けや子ども向けプログラムをPRしました。当館では中学生以下の方は無料、子どもガイドやワークシートをお配りしています。他の施設を参考に、子どもたちが楽しめるプログラムの充実を図りたいと思います。

10月7日から群馬県立土屋文明記念文学館で、企画展「文豪・森鷗外 ― その生涯、その素顔」が開催されます。交流のあった文学者や家族のエピソードを交えながら鷗外の生涯を知ることが出来ます。当館からも多くの所蔵資料を出品しておりますので、お近くにお寄りの際はぜひご覧ください。

前号4頁掲載の「展示のお知らせ」におきまして誤りがありました。正しくは左記の通りです。

10行目誤「甘い蜜の部屋」
(正)「甘い蜜の部屋」
訂正してお詫び申し上げます。

交通案内

●電車をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅 1番出口 徒歩5分
- ・東京メトロ南北線「本駒込」駅 1番出口 徒歩10分
- ・都営三田線「白山」駅 A3番出口 徒歩15分
- ・JR線・京成線「日暮里」駅 西口 徒歩15分

●バスをご利用の場合

- ・都バス 草63番系統「千駄木一丁目」下車 徒歩1分
 - ・都バス 上58番系統「団子坂下」下車 徒歩5分
 - ・B-ぐる千駄木・駒込ルート「19特養ホーム千駄木の郷」下車 徒歩5分
- ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511
URL: <https://moriogai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00～18:00(最終入館は17:30)

休館日 毎月第4火曜日(祝日の場合は開館、その他例外あり)、
年末年始(12月29日～1月3日)、及び展示替期間、煙燻期間等



文京区立
森鷗外記念館
Mori Ogai Memorial Museum